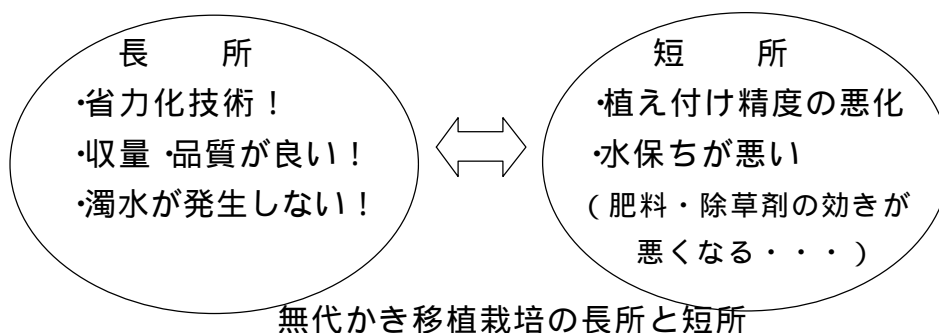


(5) 無代かき田植え

ア 無代かき田植えとは

耕耘碎土後に入水し、しばらく放置した後、代かきを行わずに移植を行う栽培法で、春の繁忙期の代かき作業を省略でき、濁水軽減効果も高い方法である。ただし、慣行の代かきを行う移植と比べると、水が保ちにくい・欠株や植え付け姿勢の低下・茎数の増加が緩慢になるといった傾向がある。



イ 適地

水保ちがすぐれること(成否の鍵。減水深 15mm / 日以下を選定する)。
碎土性がすぐれること。
隣接ほ場と段差が少ないこと。
雑草の発生量が少ないこと。
麦、大豆等跡水田を選定する場合、水保ち、雑草発生量に注意する。

ウ 作業方法

(ア) 耕起

碎土性を高めるためにほ場を十分乾かすことが必要である。

(イ) 碎土・整地

碎土性・均平度を高めるために、ほ場が十分乾いている時期に実施しておく必要がある。

乾きやすいほ場：雑草発生との関係から移植時期にできるだけ近い時期。

ただし、隣接ほ場に入水される前に作業を済ませる。

乾きにくいほ場：冬期のほ場が乾いている時期。入水前に雑草が発生している場合は、あらかじめ茎葉処理の除草剤で枯らしておく。

一般の田植えでは代かき時に水面被度や水深から均平を行うことができるが、無代かき栽培では入水までほ場の均平程度が確認できないため、レーザー均平機(レーザーレバ)で均平にする方法が確実である。

前年が水稲作で均平が十分にとれている場合は水田ハローによる整地でも可能である。

無代かき移植の実用上必要な碎土率(2 cm 以下の土塊割合)は 50 ~ 60 % と言われており、滋賀農試の試験結果では水田ハローの 1 回がけで 50 %、ロータリ 1 回 + 水田ハロー 1 回がけで 60 ~ 80 % となり水田ハローの利用により実施可能な碎土率となる。

レーザーレベラを利用したほ場の均平行程例

弾丸暗渠の施行 プラウ耕 ロータリ耕 レーザーレベラ

(ウ) 漏水対策

漏水は、畦畔からの横漏れと地下（縦）への浸透の2種類があるが、無代かきの場合、両方が多くなる傾向にある。

- 横漏れ対策：
- a あぜ塗り機等であぜ塗りを行う。
 - b 砕土後に畦畔際の外周をトラクタのタイヤで踏んでおく。
 - c 畦畔の外周に畦波シートを敷設する。

縦浸透対策：水保ちの良いほ場の選定。
排水溝の堰上げを行う。

(I) 入水

入水時期は除草剤の効果との関係から移植5日前以降が望ましい。早い時期から入水すると雑草が生長して除草剤の効果が低下する。

(オ) 移植

欠株を少なくするため、代かき移植に比べ、植え付け速度をやや遅くしたり、植え付け深をやや深くする方が安全である。

なお、側条施肥を田植えと同時にを行うには、入水前の砕土を十分に行っておく必要がある。

田植え後に浮苗の多発が心配される場合は、ほ場の状態をみながらごく少量の入水量にとどめ、数日管理後、十分入水する。

(カ) 除草剤の利用

代かきを行わないため、薬剤が稲の根に直接作用して薬害が生ずる危険性が高くなる。湛水直播に使用可能な初中期一発剤や初期剤と中期剤の体系処理が有効と考えられる。

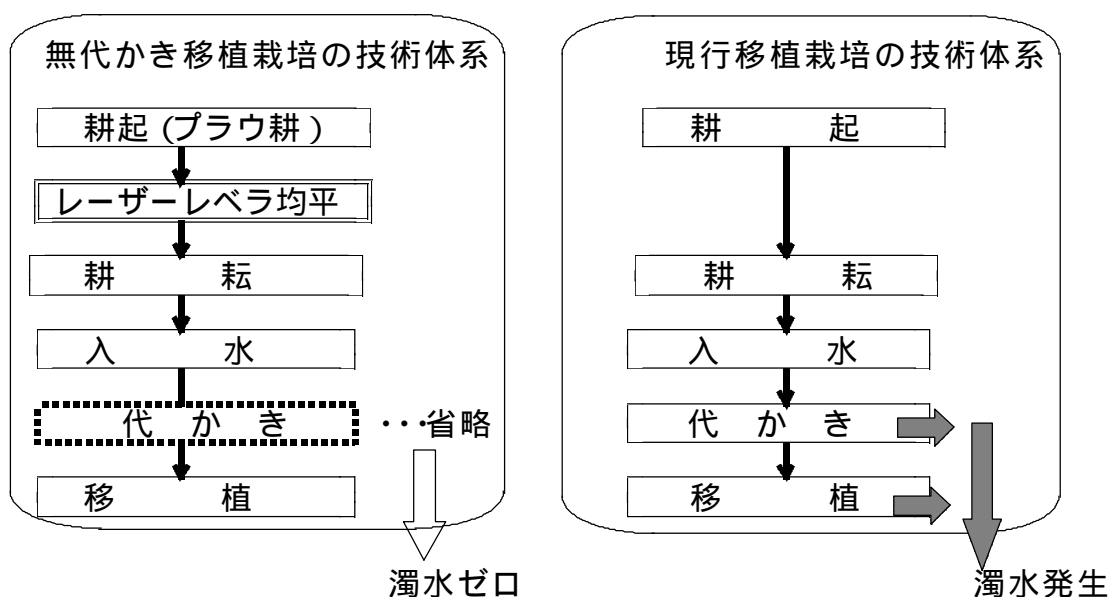


図 -13 無代かき移植栽培とは ~ 現行の移植栽培との違い ~